

心の花美術館 開館4周年記念展

# 竹久夢二 ～セノオ楽譜表紙絵展～

2018. 4. 8(日) — 6. 3(日) 10時—17時 火・水曜日休館(祝日は開館)

[入館料] 一般：500円 シニア(70才以上)・障がい者：300円 学生(小学生～高校生)：150円  
<CAFE・SHOPコーナーは入館無料>

大正4年に発行された「セノオ楽譜」は日本や西欧の名曲を歌唱・演奏し、普及する活動に貢献しました。

画家・竹久夢二が32才からの17年間に描いた表紙作品は300を超えています。

そのなかから貴重な版画約20点を展示いたします。

一世紀を経た作品とは思えない美しい色彩と大正ロマンあふれる世界をお楽しみ下さい。



## 竹久夢二 略歴

- 明治17年 9月16日 岡山県に生まれる 実家は酒屋 本名茂次郎
- 明治33年 一家で福岡へ転居 翌年家出して上京
- 明治35年 早稲田実業学校へ入学
- 明治38年 「中学世界」にコマ絵「筒井筒」1等入選し「夢二」と署名する  
早稲田実業学校専攻課を中退
- 明治40年 岸たまきと結婚 読売新聞社入社 スケッチを掲載
- 明治42年 岸たまきと協議離婚 最初の著書「夢二画集春の巻」発刊  
以後多くの出版に着手
- 大正3年 日本橋呉服屋に「港屋」開店 笠井彦乃と出会う
- 大正5年 セノオ楽譜を装幀する 以後270余のセノオ楽譜を装幀する
- 大正7年 「宵待草」が出版され全国に流布
- 大正9年 彦乃、永眠「長崎十二景」完成 黒猫シリーズ制作
- 大正10年 モデルのお葉と所帯を持つ 「女十題」完成
- 大正12年 関東大震災により  
恩地孝四郎らと企画した「どんたく図案社」実現寸前に潰滅
- 大正14年 「婦人グラフ」に表紙や口絵をはじめめる  
アトリエ新居「少年山荘」完成、転居
- 昭和6年-7年 榛名山美術研究所建設の準備をはじめめる  
外遊を決意し、アメリカへ向かう 渡欧、各地を歩く
- 昭和8年 帰港 台湾へ行くが体調を悪化させ帰国 病臥
- 昭和9年 長野県富士見療養所で永眠 雑司が谷墓地に埋葬



かわいらしい図柄の風呂敷や文具など  
展覧会開催期間のみ  
夢二グッズの販売をいたします。

心の花美術館▶検索

メール：info@kokohana-artmuseum.com

〒386-0012 長野県上田市中央2-7-23 tel/fax：0268-22-0022

主催：「竹久夢二セノオ楽譜表紙絵展」実行委員会

後援：上田市 上田市教育委員会 株式会社 港屋 信濃アッサン館 無言館

心の花美術館  
art collection museum